

2013 FUJI CHAMPION RACE SERIES ROUND 4



REVIEW

Formula Challenge
Japan
ROUND 8&9

今シーズン限りで終了と発表があったFCJ、富士スピードウェイでは最後のレースとなる第8戦・第9戦が行われた。土曜日の朝一番で第8戦・9戦の予選が行われ、この時は雨粒も多少落ちるものの、路面はまだ乾いている状態。第8戦予選でのトップタイムは8 HFDP/SRS-F/ARTA 清原章太 1'43.474。第9戦の予選トップは9 FTRSスカラシップSMR 道見ジョーン真也 1'43.381。第8戦の決勝レースは土曜日の昼過ぎに始まってスタート上手く決めたボールの8 清原が後続を引き離しにかかりそのままチェッカーとなる。その後ろでは2番手争いは激しく、2位には9 道見、3位には最終ラップで6番手スタートから追いつけた11 FTRS スカラシップFCJ 坪井翔が入った。8 清原は「ようやく勝つことが出来てホッとしています」とコメント。第9戦決勝は翌日曜に行われ、路面はウェットコンディション。3番手スタートの11 坪井翔が2周目にはトップに立ち、徐々に引き離しそのまま優勝。2位には1 FTRS FCJ山下健太、3位に3 FTRSスカラシップFCJ 篠谷大幹が入った。11 坪井は「雨が降っていたのが良かったです。後ろを気にせずにファステストを狙いました」と話していた



ROUND 8



RESULT リザルト FCJ Rd.8

Rank	No.	Name
1	8	清原 章太
2	9	道見ジョーン真也
3	11	坪井 翔
4	6	三笠 雄一
5	3	篠谷 大幹
6	2	根本 悠生



ROUND 9



RESULT リザルト FCJ Rd.9

Rank	No.	Name
1	11	坪井 翔
2	1	山下 健太
3	3	篠谷 大幹
4	2	根本 悠生
5	8	清原 章太
6	5	石川 京侍

REVIEW

Porsche GT3 Cup
Challenge Japan
ROUND 6&7

各サーキットを転戦して行われるGT3 Cup、第6・7戦はここ富士スピードウェイで行われた。今回は日曜日の早朝に予選が行われ、午後に決勝2連戦といったハードスケジュールになっている。ウェット路面の予選でトップタイムを出したのは、トライアルクラス66 KRMASコーポレーション Nao 2'01.861。オープンクラストップは総合6番手の9 KDCこばやし 歯科996Cup 小林賢二。第6戦の決勝は11:40スタートだが、あいにくの雨模様でSC先導のスタートとなった。2周目でSCがピットロードに入りレースが開始された。序盤では66 Naoが引き離しにかかりそうだったが、徐々に順位を上げてきた4番手スタートの22 PCJコヤマクリニック Masaya KOYAMAが5周目のダンロップ コーナーで一瞬の隙を突きトップに立つ、その後もさらに引き離してトップでチェッカーを受けた。オープンクラスは9 小林が優勝、Cup-Iクラスでは3 Y&Yボルシェ 清水正智、Cup-IIクラスは25 TEAM AYA997 M エディオン ニケが優勝した。今回の最終レースとなる第7戦は16:55スタート予定だったが、雨と濃霧のためスターティンググリッドにマシンは並べたものの、視界不良で中止となった。

RESULT リザルト Porsche GT3 Cup

Rank	No.	Name
トライアル		
1	22	Masaya KOYAMA
2	66	Nao
3	6	ARTE ROSSI
4	7	星野 敏
5	73	スズキ マサオミ
6	72	タカ タカシ
7	2	二宮 嘉章
Cup-II		
1	25	エディオン ニケ

RESULT リザルト Porsche GT3 Cup

Rank	No.	Name
オープン		
1	9	小林 賢二
2	23	滝澤 智幸
3	10	安達 ギョウザ
4	88	松田 明大
Cup-I		
1	3	清水 正智
2	77	MUSASHI
3	95	Kazumichi Maruyama
4	36	SKY CHEN

REVIEW

Inter Proto Series Round 2

同じマシンでジェントルマンドライバーが2レース、プロフェッショナルドライバーで1レースを2日間にわたって行われるインタープロトシリーズ。スケジュールは土曜日にジェントルマンクラスに続いてプロフェッショナルクラスの予選が行われ、ジェントルマンの第1レース、日曜日にジェントルマン第2レース、最後にプロフェッショナルクラスの決勝となっている。

第1レースは予選トップの50 B-MAX・インターブプロトDRAGONがコースレコードの1'48.182でポールポジション、決勝スタート時には雨も上がり路面も所々乾いてきている状態だがSCスタートとなり、トップの50 DRAGONがその座を抑えたが2周目で戦列を離れてしまう、その隙にトップに出たのは3番手スタートの4 RSS広島トヨペットIPS AKIRA、その後ろを3 INGING MOTERSPORT ト部治久が追い上げるが届かず4 AKIRAが優勝した。レース後「車内でクーラーボックスが動いてしまうというトラブルがありましたが、ト部さんから何とか逃げられました」と話していた。翌日の第2レース開始の頃は雨が酷く、

スタート時間を遅らせ8周に減算、さらにSCが3周入ってのスタートとなった。SCが離れた4周目は4 AKIRAが抑えたがダンロップで3 ト部が前に出てそのまま優勝、2位には36 MYZ RYUBIが入った。ト部は「タイヤ温まってきた頃には終わってしまったが、昨日の教訓が生まれました」と話していた。その後のプロフェッショナルクラス決勝スタート時には、雨は上がっているものの路面状態は良くなくSCスタートとなった。ポールポジションは37 J-Gear号COOLSHIRT 中山雄一、それに並ぶのは4 平川亮。3周目に入るところでSCが入りスタートが切られる。予選順位順でコントロールライン上を通過していくが、3周目激戦の中トップ2台が1コーナーでコースアウト、代わってトップに出たのは50 関口雄飛、すぐ後ろには3 横溝直輝がついている。中盤まで各所で順位争いが続いたが、13周目にさしかかると、かなりの霧が降りてきて、ピット側からグランドスタンドも見えないほどになってきたために、SCが導入された。22周もしくは45分のレースというレギュレーションの元、17周終了時点で45分に達したため、18周でチェッカーとなった。優勝した50関口は「2台がスピンをしたので落ち着いて行けましたが横溝さんもベテランらしくしぶとく追い上げてきていました。路面が少し良くなったところでファステストもとれたので良かったです」と話していた。

RESULT リザルト IPS Gentleman-1

Rank No.	Name
1	4 AKIRA
2	3 ト部 治久
3	19 伊藤 良男
4	37 澤田 透
5	16 渡邊 久和
6	36 RYUBI



RESULT リザルト IPS Gentleman-2

Rank No.	Name
1	3 ト部 治久
2	36 RYUBI
3	37 澤田 透
4	16 渡邊 久和
5	50 DRAGON
6	4 AKIRA
7	19 伊藤 良男



RESULT リザルト IPS Pro

Rank No.	Name
1	50 関口 雄飛
2	3 横溝 直輝
3	4 平川 亮
4	19 黒澤 琢弥
5	37 中山 雄一
6	16 影山 正彦
7	36 里山 勉



Pro Driver

REVIEW

ROADSTER CUP NA6/NA8/NB8 ROUND 3



RESULT リザルト RSC NA6

Rank No.	Name
1	7 茂木 文明
2	23 山川 穰
3	76 辻本 均
4	5 入江 直
5	999 鳥居 武史
6	27 野木 強

RESULT リザルト RSC NA8

Rank No.	Name
1	1 山形 卓
2	88 山田 健介
3	230 石渡 幸治
4	81 須藤 裕輝
5	71 山本 純一

RESULT リザルト RSC NB8

Rank No.	Name
1	11 戸田 裕一
2	77 伊藤 元洋
3	22 山平 健太郎
4	3 羽入 大輔
5	91 神谷 誠
6	84 大矢 明夫

REVIEW

Super FJ/FJ1600 ROUND 4



第3戦となるこのクラス、予選でのトップタイムはNA8クラス1 大山ベリーアクレMotyNA8 山形卓の2'08.469、フロントローに並ぶのはNB8クラストップの22 ファニーSオリーブNB8制動屋 山平健太郎、2'08.526。NA6クラストップは総合9番手の23 joyアクレMotys☆NA6 山川穰。土曜日のワンデーで予選・決勝と行うスケジュールになっているが、決勝スタート時には雨粒が落ちてきてフォーメーションの頃には路面も濡れてくるコンディション。3番手スタートの11 JoyアクレMotys☆NB8 戸田裕一が好スタートを決め、1周目には2位に上がりその週の1コーナーでトップに出る。しかし、1 山形も離されることなく背後について周回を重ねるが8週のレースは11 戸田がトップのままチェッカーを受けた。NA6は7 大山オートabMoty'sNA6 茂木文明がトップでチェッカー。NB8 11 戸田は「楽しかった! 久々にライバル(山形)が復活してくれて、ちょっとブロックとかしてみちゃったけれど、勝てて嬉しい」NA8 山形は「昔からのレース仲間なんで安心していただけれど手強い! 久々のレースで楽しかったです」7 茂木「スタートで前に出られたのであとは1800について行こうと頑張りました」と話していた

このクラスは土曜日に公式予選、日曜日に決勝が行われた。セミウェット路面での予選でポールポジションを取ったのはS-FJクラス62 ROBOTルポーセアカデミー 久保凜太郎1'50.697のタイム、フロントローに並ぶのはここまでのポイントリーダー36 玉三郎EDアルビRT岩本10V 太田達也 1'51.704のタイム。FJ1600クラスのトップは11 オートルックFJ1600 佐藤晋一が1'58.025でトップとなっている。完全にウェットコンディションとなった決勝ではスタート直後から混戦模様、1コーナーで62久保がラインを外した隙に3番手スタートの22赤堀がトップに出るが36太田が巻き返しトップへ、36太田、62久保、22赤堀となるも4周目には41今井が赤堀を抜いて3位に上がりその順位のままレースは終了した。FJ1600クラスは激しい戦い、7笹尾徹也がいったんトップに出たが4周目には38 オートルックEVOLEX・KH 原田健がトップに、そのまま周回を重ねたが、ラスト一周で11佐藤が巻き返し優勝した。レース後36太田は「昨日の予選もあり良くなかったし、スタートも失敗してしまったのですが、何とか前に出られて逃げ切れました。ウェットがイマイチだったので、嬉しい」11佐藤は「3回スピンをしてしまいました。タイヤを新しくしてよく感触がつかめていなかったのですが、そんな中勝てて嬉しいです」とコメント

RESULT リザルト Super FJ

Rank No.	Name
1	36 太田 達也
2	62 久保 凜太郎
3	41 今井 龍太
4	22 赤堀 憲臣
5	37 神村 悠太
6	51 桑原 耕平

RESULT リザルト FJ1600

Rank No.	Name
1	11 佐藤 晋一
2	38 原田 健
3	20 柿島 昭一
4	7 笹尾 徹也
5	12 塚原 康弘

REVIEW



AE111 Levin/Trueno ROUND 3



RESULT リザルト AE111

Rank No.	Name
1	22 宮崎 敏
2	23 藤木 学
3	5 小島 寛之
4	78 冥賀 直文
5	91 窪田 範明
6	11 白井 利明

毎回激しい争いのこのクラス、予選でトップタイムを出したのは5 ウェタケワコースED増島トレノ 小島寛之 2'02.444、続いて22 IDI1or8レーシングトレノ 宮崎敏、ここまで連勝している78 トウワケミカル高田μトレノ 冥賀直文が三番手につけている。土曜日の予選・決勝のスケジュールとなっているが、決勝時にはまだ小雨が落ち路面は完全にウェット状態でのスタートとなった。スタートでは2番手からの22宮崎が1コーナーを抑えトップに立つ、4番手スタートの23 マルヨシ・IDIフルスロレビン 藤木学が2番手にあがる、トップに立った22宮崎は徐々に引き離しにかかるが、23藤木と5 小島の激しい2番手争いがレース中盤まで続いた。10週のレースは22宮崎、23藤木、5小島の順でチェッカーとなった。これまでのポイントリーダー78冥賀も5位に入ったが、シリーズチャンピオンの行方は最終戦までの持ち越しとなった。レース終了後22宮崎は「レインタイヤを選択していて、スタート直後に雨が少なくなってきたのでダメかな?と思ったのですが、後半逆に雨がひどくなり助けられました。雨乞いをしてくれたという、ちびっこ応援団のおかげです」と話していた

REVIEW

SILVIA-180/MR2/NA1600 N1600/AE86 ROUND 3



5クラス混走のこのレース、予選でのトップタイムはNA1600クラス37 四季の森歯科IDIウィンちゃん86 秋元優範 1'58.909のタイム、総合3番手のタイムを出したのはシルビアクラス24 ディバージョンμフルスロ13!! 瀧下貴之、MR2トップの78ダイエーモータースDXLMR2 谷田伸行は総合6番手のタイム。今回もクラスごとのグリッド順になるが、一周目から激しいデットヒートが繰り広げられ、二番手スタートの73小宮伸介が一時トップに立つもシルビアクラス24瀧下が参集目にはトップへ、その後ろでは各コーナーで激しい戦いが続き、レース中盤ではN1600クラス100百式自動車WINリデューカーEG6 古谷彰教が2番手に上がってくる。レース三分の二でSC導入があり、残り2周で再スタートが切られるという最後まで目が離せない展開となった。激しい決勝を制したのはシルビアクラスの24瀧下、N1600クラス 100 古谷、NA1600 37 秋元、MR2 78 谷田と各クラス優勝が順にフィニッシュし、AE86クラスは240 ガレージアネックス・μ・レビン 山口崇がトップでチェッカーを受けた。総合トップでチェッカー受けた24瀧下は「SC導入も初めての経験だったし、シルビアでも自分でも初優勝でした。後半で雨が上がってくるかなと思っていたので前半勝負をかけたのですが、SC再スタート後はとにかく1周しかなかったので、飛び出したりしないように走りました」と話し、N1600優勝の100 古谷は「タイヤが新品だったら総合も狙えたかも?というくらい調子が良かった」と話していた



RESULT リザルト SILVIA-180

Rank No.	Name
1	24 瀧下 貴之
2	79 西田 広一郎
3	96 野呂 立

RESULT リザルト MR2

Rank No.	Name
1	78 谷田 伸行
2	3 土取 謙太郎
3	4 阿部 恵一
4	26 藤永 雅彦



RESULT リザルト NA1600

Rank No.	Name
1	37 秋元 優範



RESULT リザルト N1600

Rank No.	Name
1	100 古谷 彰教



RESULT リザルト AE86

Rank No.	Name
1	240 山口 崇
2	16 朝倉 潤司
3	41 中村 徹
4	17 上條 晃司
5	36 大石 重之
6	40 柳本 文彦